来賓祝辞・乾杯のご発声

本日は瑶子女王殿下のご臨席を仰ぎ、そして安倍昭恵会長の下で、厳粛にも盛大な式典がここに無事終了いたしました。今回表彰された皆様方に心からお祝いを申し上げます。

私は今、表彰を受けられる皆様方の表情を拝見して、共通することに気付きました。安倍会長から表彰状を受け取られる時の優しい眼差しは、皆さん共通のものですが、その中に大変強い意志のある眼力を見ることができました。この強い意志こそ皆様方のすばらしい活動を支えてきたものだろうと思いました。

私の務めております日本財団は、広く世界を対象にさまざまな弱者のための救済活動を展開している組織です。我国には約５万といわれる NPO 法人があります。しかし、現実に活動を継続されているところは、あまり数字を言うといけませんが、極々わずかなのです。なぜかと申せば、何か社会のために役立ちたいという気持ちが強い方ほど、５年６年７年でお疲れになってやめてしまわれるのです。私は日本の多くの NPO 法人などをご支援させていただいた経験から申し上げており、このような感想を持っています。

ご自身の活動について「見返りを求めない」。これは今日表彰を受けられた皆様共通の考えですね。たった一度の自分の人生をいかに充実したものにして生きて行くか、生きるってどういうことなのだろうか。自分の納得した人生を歩みたいということが肝心で、その結果として、社会のために役立っているということだと思います。社会のために役立ちたいという気持ちが先にたつと体のどこかに力が入り、途中で疲れてしまうのです。ですから、私たち自身のたった一回の人生をどのように生きようかということならば、これは30年でも50年でも続くわけで、それが結果として人様の役に立ち、又、喜びを分かち合えることができることだろうと思います。

安倍会長は単に名前だけの会長ではありません。自ら率先して現地視察のために海外にも行って下さっております。ご主人様は皆様ご承知の方でございまして、一億総活性化の活躍の時代をつくろうということで、高い立場から日本の政治家あるいは行政を活用し、日本が活気あふれる世界のモデルになるような平和で力強い、そして国民一人一人が愛情あふれる、そういう充実した日本国をつくろうとした努力をなさっていらっしゃいますが、安倍昭恵夫人は、その反対の草の根レベルから世の中の諸問題を解決しようと、皆様方のような方々のご協力を得て、グラスルーツからの活動を

展開されておられます。

皆様のような強い意志を持った人たちが何百倍何千倍も増加すれば、日本の国はかつてのように人に対する思いやりがあり、愛情があり、助け合っていく。そういう日本人本来が持っていた社会になるのではないでしょうか。最近は物質文明が発達し過ぎて物があればいい、お金があれば幸せになれるというふうな錯覚した時代になってしまいましたが・・・もう一度日本人本来が持っている日本人の心を取り戻したいものです。

この日本が「経済で栄えて精神で滅ぶ」とは、私の父、笹川良一の言葉でございます。人間生きて行くためには、勿論、お金も必要でしょう。しかしそれ以上に日本人一人ひとりの心です。心が豊であるということは、そこに生きる力が出てくるのです。ここにお集まりの皆さんはそれをお持ちでございますので、知らない人たちにお分けいただいて、まわりの人を一人でも二人でもそういう気持ちにしていただいて、本来の日本人の優しい、しかし強靭な精神力を持った日本人が増えて行くことが、結果的には日本が豊になり、力強くなり、世界の平和に貢献できる、そういう日本国になるのです。

皆様方の益々のご健康でご活躍をお祈りしますと同時に、この日本国が元気のある、そして精神的にも豊かな助け合いの出来る、そういう国にしようではありませんか。

やりましょう！

日　本　財　団
会　長　　笹　川　陽　平

祝賀会

平成27年度
社会貢献者表彰祝賀会
Supported by
THE NIPPON FOUNDATION

平成27年度
社会貢献者表彰祝賀会

平成27年度
社会貢献者

平成27年度
社会貢

公益財団法人
帝国ホテル

社会貢献者表彰とは

国の内外を問わず、社会と人間の安寧と幸福のために貢献し、顕著な功績を挙げられながら、社会的に報われることの少なかった方々を表彰させて頂き、その功績に報い感謝することを通じてよりよい社会づくりに資することを目的とする。

平成27年度社会貢献者表彰の概要

【募集告知】
平成27年１月中旬より、ダイレクトメール発送、新聞への告知広告、当財団ウェブサイト等にて

【対象となる功績】
・人命救助の功績（平成28年７月１日表彰式典予定）
・社会貢献の功績（一部平成28年７月１日表彰式典予定）
・海への貢献の功績

【候補者について】
・候補者には、年齢・職業・性別・信条・国籍等の制限はない
・候補者は、同種の功績により当財団の「社会貢献者表彰」を受賞されていない方とする
・候補となった功績と同一または同種の功績により、既に国の栄典（叙勲、褒賞）または・大臣表彰等を受賞されている方は、選考の際、後順位とされる
・「人命救助の功績」については、原則として、平成26年４月１日以降の功績を対象とし、この功績の場合のみ、当該行為により亡くなられた方を含む

【選考について】
選考委員会開催日：平成27年６月15日　於第一ホテル東京

【受賞者】
受 賞 者：49件
応募総数：145件

【表彰式】
開催日：平成27年11月30日　於帝国ホテル東京
受賞者には表彰状、副賞として日本財団賞（賞金）を授与する

受賞者手記目次

■海への貢献の功績

京都府立海洋高等学校 …… 032
大洗サーフ・ライフ・セービング・クラブ …… 034

■社会貢献の功績

特定非営利活動法人　With 優 …… 038
NPO 法人　日立理科クラブ …… 040
更生保護法人　両全会 …… 042
社会福祉法人　福田会 …… 044
特定非営利活動法人　京都ほっとはあとセンター …… 046
特定非営利活動法人　このゆびとーまれ …… 048
美野島司牧センター …… 050
國井　美保子 …… 052
公益財団法人　徳島県老人クラブ連合会 …… 054
安田　未知子 …… 056
中本　忠子 …… 058
社会福祉法人　カリヨン子どもセンター …… 060
認定 NPO 法人　自立生活サポートセンター・もやい …… 062
望海地区在宅サービスゾーン協議会 …… 064
公益財団法人　ふきのとう文庫 …… 066
高島　法子／榎本　恵子 …… 068
やすづか学園菱里地域支援委員会 …… 070
あさひ福祉作業所 …… 072
肢体不自由児水泳訓練教室ラッコの会 …… 074

かたくり工房 …… 076
長野県信鈴会 …… 078
豊能障害者労働センター …… 080
ファイナルステージを考える会 …… 082
うつろ木ファミリー …… 084
認定 NPO 法人　うりずん …… 086
草柳　和之 …… 088
五色園区自主防災隊 …… 090
特定非営利活動法人　かながわ森林インストラクターの会 …… 092
柾美会 …… 094
女川1000年後の命を守る会 …… 096
髙橋　美知子 …… 098
大石　由紀子 …… 100
特定非営利活動法人　ロバの会 …… 102
鈴木　剛生 …… 104
笹原　留似子 …… 106
平田　彰宏 …… 108
齋藤　充 …… 110
広瀬川倶楽部 …… 112
特定非営利活動法人　ジャパンマック福岡 …… 114
渡邉　修次 …… 116
社会福祉法人　北海道いのちの電話 …… 118
神戸市立住吉中学校野球部 OB 会 …… 120
羽田　勝 …… 122
金田　聖夫 …… 124
及川　リウ子 …… 126
栗山　さやか …… 128
岩田　雅裕 …… 130

海への貢献の功績

▶海の安全確保、環境保護、汚染防止等に尽くされた功績

京都府立海洋高等学校
（京都府）
…… 032

大洗サーフ・ライフ・
セービング・クラブ
（茨城県）
…… 034

京都府立海洋高等学校

京都府

平成19年度から阿蘇海の水質改善や、宮津湾で混獲され廃棄処分には費用のかかる「ヒトデ」を堆肥化する取り組み、天橋立の水域環境の保全推進のための「マリンフォレストプロジェクト」の展開、藻場（アマモ）を造成する取り組みとウニによる食害を防ぐ取り組み、底曳網に入る大量のエチゼンクラゲによる被害を防ぐために府の海洋センターなどと共同で底曳網の改良と開発、海の環境と山の環境は互いに影響しあうことから、森づくりにも着手し、他団体と協力して育樹際に参加し植林や林道整備、啓蒙活動などに取り組んでいる。平成25年度から文部科学省のGLOBE校に指定され、学校の桟橋で毎日水質測定や毎月の海洋観測結果をホームページに掲載し、地元の漁業者に活用されている。

（推薦者：京都府教育委員会）

総務企画部　部長
上野　憲史

この度は、格調高き帝国ホテルを会場とした表彰式典にお招きいただくとともに、列席者へのきめ細かな配慮と万全の準備をいただいたことに、厚くお礼申し上げます。瑶子女王殿下の御臨席を賜る中、財団会長の安倍昭恵様や選考委員長の内館牧子様他からの御挨拶は、地方創生や人口減少、若者の社会参加、草の根の国際貢献等、全てを温かく包み込み、万人を受け入れつつ素晴らしい社会を築こうとするものでした。小職をはじめ、臨席させていただいた本校生徒３名はその内容に共感を越え、大きな感動をいただくに至りました。会場が満杯となる程の多数の列席をいただくなかで表彰が始まり、海への貢献の功績、第一号として京都府立海洋高校の取組が紹介され、安倍昭恵会長からは、表彰状の内容全てを丁寧に読み上げていただきました。その内容に胸が熱くなり、大変な栄誉と感謝に包み込まれるとともに、今後の海への活動や取組に勇気と力を与えてくださいました。他の受賞者及び団体48組皆様の活動や功績が素晴らしい映像等で紹介されましたが、私財を投じての地道な活動や、何十年もの永きにわたる取組等を知りました。これには大変な驚きと目頭が熱くなる程の感動を覚え、社会貢献活動の推進に多くの方々が御尽力されていることへの尊敬の念を新たにいたしました。

さて、本校は明治32年に京都府水産講習所として始まり、平成２年に現在の京都府立海洋高等学校に改名し、今年度で117年目を迎えます。栽培漁業実習場や食品製造工場（２棟）、水深10mプール、第４代実習船「みずなぎ（258トン）」等を保有する水産・海洋系単独専門高等学校として、「だれもやってないことをやってみませんか」をキャッチフレーズに、将来のスペシャリストの育成を目指しております。

取組例として、平成25年度から文部科学省の事業であるGLOBE校に指定され、若狭湾の海洋観測を行い、観測結果をホームページで掲載し漁業者に活用していただくとともに、広範囲における海洋環境の変動について、河川と沿岸環境の関連させた研究に取り組んでいます。また、日本三景である天橋立に隣接する阿蘇海の水域環境に着目し、平成20年５月からアサリ資源の増大を通じた水質改善と外敵のヒトデ駆除を京都府漁業協同組合や京都府農林水産技術センター海洋センター、京都府水産事務所等と連携して取り組んでおります。さらに、平成23年より「マリンフォレストプロジェクト」を立ち上げ、海や山の森づくりに取り組んでおります。これは京都府沿岸の藻場造成のため、生殖株の採取や播種試験、生育調査、ウニ等の外敵駆除に取り組むとともに、高校生が先生役として水産・海洋分野の学習を小・中学生対象に里海環

境の保全に関わる授業「青空ラボ」を実施しています。

母なる海は「生物のゆりかご」とも言える優しさに溢れる一方、自然の猛威を振るう存在でもあり、近年の海水温上昇は世界の気象に異変をもたらし、人間社会の未来をも変えてしまいます。国土を海に囲まれた日本は、水産・海洋の研究や活用を推進することが不可欠であり、また、この分野においては国際社会と連携し、その進展に向けて貢献しなくてはならないと考えています。そのためにも、海を「見る」だけでなく、「診る」、そして「看る」ことができるプロフェッショナルな人材を育成するとともに、末永く海と共存できることに喜びを感じることのできる市民の育成と社会作りを目指して、今後、より一層精進して参りたいと思います。

総務企画部　部長　上野　憲史

▲ GLOBE の取組（海洋観測）

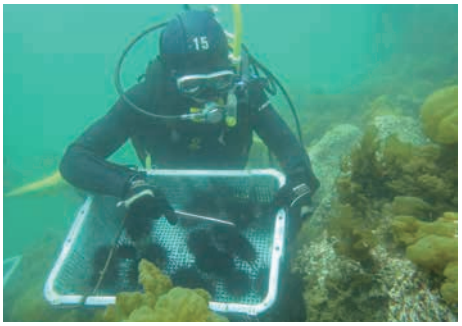
▲アマモ生殖株を水槽で追熱

▲海と山の森づくり「育樹祭」

▲小学生対象の里海環境学習（青空ラボ))

▲天橋立沿岸でアマモ生殖株を採取

▲天野橋立阿蘇海に繁茂する海草を除去



▲養老沿岸でのウニ駆除

大洗サーフ・ライフ・セービング・クラブ

茨城県

平成４年に母体が発足し、同５年現在の活動名となり、茨城県大洗町の大洗サンビーチでライフセービング活動を始めた。同９年に日本初の「ユニバーサルビーチ（当時はバリアフリービーチ）」の運営を開始し、水陸両用の車椅子を導入し、障がい者専用の駐車場や更衣室も設置した。このユニバーサル・クラブの利用登録会員は同26年に1000人を突破し、新型車椅子の制作を開始。海水浴場設置期間にはパトロール活動の他、クリーンキャンペーン、スポーツキャンペーン、ユニバーサルキャンペーン、自然体験教室なども行ない、海水浴場の運営に限らず、地域の行事に参加したり、津波避難誘導訓練を行ない、有事に備えた活動も行っている。

（推薦者：大洗町　商工観光課）

クラブ代表
足立　正俊

「サプライズに感謝」

クラブが「社会に目立たぬ貢献活動」として認められた栄誉は、認識していたつもりであったが、海族にとってある意味、予想外の２日間となった。

初日の交流会で気軽にお話させて頂いた受賞者の皆さんは、当然ながら謙虚で暖かく気さくな方々ばかりであった。短時間であっても“生の交流”は、それぞれの書物を読むよりも鮮烈な学習となった感がある。

お歴々の末席を汚すのもおこがましいと、多少卑屈になりながら迎えた２日目の表彰式であったが､海族にとって更に落ち込む事態に陥った｡活動 VTR を見ていて､何回も眼から水分らしきものを垂らしてしまったのだ。VTR には、活動の向こう側にある“チャレンジャー”たちの素顔が映し出されていたからだろう。前日から親しく接していただいた受賞者代表の挨拶にも同様に感動してしまった。荒波に飛び込むライフ・セーバーとして、生死でさえ常にドライに向き合うはずの海族船長としては、迂闊であった。

昨今､TV や雑誌等に多くの「日本は素晴らしい」的企画が目立つ。経済を、技術を、歴史を、伝統をどこと比べて自画自賛するのか？国威高揚ブーム？に多少の抵抗を感じていたが、これらの“市井（失礼）の人々の力強い心意気”“隣人に対する無償の優しさ”此れこそが日本人の誇りだと確信した。彼らは、自分が「良き事をしている」との意識さえも無いようだ。本当に勉強になった。日本に『一隅を照らす人々』が沢山いる事を、もっと知りたいし、知らせたいと思った。

そうは言っても到底、自分達には吐出した活動が出来る由もなく「身の丈」スポットでコツコツ愚直に邁進していくしかないと自らを叱咤した。我々は【誰もが安全に水辺を楽しむ】という目標のために通年厳しいトレーニングを欠かさないが、特に「誰もが」という海辺のユニバーサル化を課題にしている。同時にそれが「海辺から発進したカルチャー」として社会のユニバーサル化推進に、より寄与できればと願っている。目的を達成するまで、子ども達や障がい者の方々が喜んで海に来てくれる“ゆるキャラ”《ZICO 船長》として生きることにした。海族姿は、船長にとっては正装であり、個人的なことは素顔を含め公にはしないことにしているのでご容赦願いたい。

今回、表彰式典で得た事を持ち帰りメンバーと共有することによって、さらに新たな目標設定を意欲的に模索している。

改めて、関係者総ての方々に心より感謝申し上げる。ありがとうございました。

クラブ代表　足立　正俊

▲ライフセーバー集合写真

▲スポーツキャンペーンで玉入れ

▶ランディーズご利用者

▲ランディーズご利用者とご家族

▲ランディーズご利用者とライフセーバー

▲子どもたちによるビーチクリーン

▲盲目の方とクラブ代表

▲教育事業シーカヤック